

伊賀農林事務所管内

平成30年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業 実績一覧

市町名		名張市		
当年度交付金額	26,763,000	円 (ほか、市町基金活用)	8,326,859 (円)	
事業名	対策区分	交付金充当額	当年度交付金	ほか、市町基金
1 危険木伐採事業	2. 暮らしに身近な森林づくり	4,308,016	4,308,016	0
2 水源林整備事業	2. 暮らしに身近な森林づくり	2,386,800	2,386,800	0
3 県産材に親しむことができる木育推進事業	3. 森を育む人づくり	6,351,000	6,351,000	0
4 森林公園等環境活用整備事業	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	600,000	600,000	0
5 未利用間伐材バイオマス利用推進事業	4. 木の薫る空間づくり	508,915	348,864	160,051
6 人家裏危険木伐採事業	2. 暮らしに身近な森林づくり	1,872,320	1,872,320	0
7 学校林整備事業	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	500,000	500,000	0
8 森林環境教育推進事業	3. 森を育む人づくり	100,000	100,000	0
9 公共建築物木質化事業	4. 木の薫る空間づくり	8,162,808		8,162,808
10 桜並木保全管理事業	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	300,000	300,000	
11 朝日公園木製遊具整備事業	3. 森を育む人づくり	10,000,000	9,996,000	4,000
合計		35,089,859	26,763,000	8,326,859

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
------	----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本	危険木伐採事業
事業費	4,308,016 円(うち交付金	4,308,016 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	<p>通学路等及び市有施設の周辺や緑地にあつて、台風等により倒木の恐れがある危険木の伐採を行い、市民の暮らしの安心・安全を確保する。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 通学路、スクールバス通路及び市が所有する公共性・公益性の高い施設(小学校・中学校・保育所・幼稚園・公民館・市民センター・図書館)の周辺にあつて、台風等により倒木の恐れのある危険木の伐採を行った。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 名張市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 19箇所</p> <p>【事業量】 危険木除去本数 19箇所</p> <p>【事業実施期間】 平成30年4月～平成31年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 整備によって通学路等の安全性が向上する小・中学校数:12校</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 地域住民及び学校関係者の声や、市による現地確認等により、危険性や緊急性等を総合的に検討し、優先順位を決定した。</p> <p>【実施した効果】 通学路沿いの危険木を除去したことにより、災害時等に倒木の危険が無くなり、子ども達の通学時の安心・安全が確保された。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 当該箇所は雑木が多く、木材生産活動による維持管理が困難であることから、今後も緊急的に除去が必要な危険木が発生した場合は、市で対応していく。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 実施箇所は、市道沿いであるため、市民の通行の妨げになる可能性もあり、税をPRする看板を設置することは難しい。が、今後、市広報や学校教育の場において、住民に森林づくりの重要性を周知していく。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 地域住民や学校関係者等に、「道路に覆いかぶさっていた木が無くなって安心できる。」等の声をいただいた。今後も、通学路の安全が維持されるよう、パトロールを行い、危険木が発見した場合には早急に対応していく。</p>

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	名張市
番号	区分	事業名		
1	基本	危険木伐採事業		
事業費	4,308,016 円(うち交付金	4,308,016 円	うち基金活用	0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による委託契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 市有地にある災害時等に倒木等の恐れがある危険木の中でも、緊急性の高い通学路沿いの整備が進んだ。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 市の契約関係規則に基づき、19件を随意契約により実施。</p> <p>【契約相手方の選定理由】 設計の範囲内であったため、全て見積り業者と契約している。</p> <p>【事業費の積算根拠】 職員が造園修景積算マニュアル等によって詳細に設計。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 整備によって安全性が向上するしゅう・中学校数:12校</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 市有地にあるか市道に危険を及ぼす恐れのある危険木について実施。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市有地のため、転用等の恐れはない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】</p> <p>【実施中の実績】 「広報なばり」8月号に掲載。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で取り組みについて放送した</p> <p>【実施後の実績】</p> <p>【今後の見込】 平成30年度の「広報なばり」に実績を掲載予定。学校通信や学校HPに掲載するよう働きかける。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で放送予定</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり
------	----------------

市町名	名張市
-----	-----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

7. 写真



写真1
通学路整備前【市道里緑が丘線】



写真2
通学路整備完了【市道里緑が丘線】



写真3
伐採作業実施前【富貴ヶ丘4番町緑地】



写真4
伐採作業完了【富貴ヶ丘4番町緑地】



写真5
伐採作業前【市道広坊青蓮寺線】

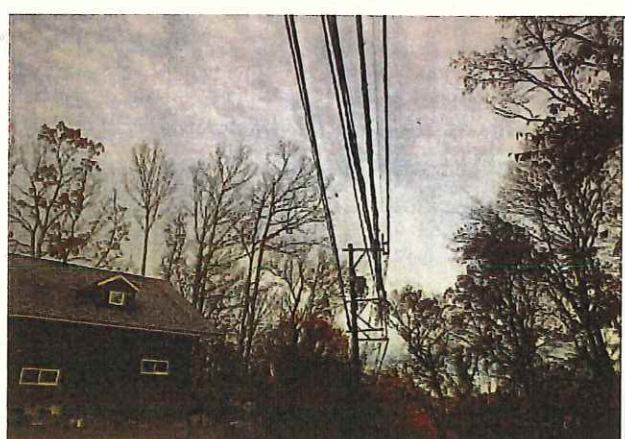


写真6
伐採作業後【市道広坊青蓮寺線】

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり		市町名	名張市
番号	区分	事業名		
2	基本	水源林整備事業		
事業費	2,386,800 円(うち交付金		2,386,800 円	うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的

水は市民生活の基盤であり、森林は市民へ水を供給する源泉である。しかしながら、近年の林業の不振などにより、手入れがなされず荒廃した森林が増えており、特に奥山においては荒廃が顕著で、水源涵養機能の維持が困難な状況にある。そこで、奥山で長年放置されて荒廃している環境林を適度に間伐することで、水源涵養機能の増進を図り、併せて森林所有者と環境林維持の協定を結ぶことで環境林の長期的な維持・存続を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

水源地となる奥山の環境林で、三重県水源地域の保全に関する条例における特定水源地域に指定されている場所において強度の間伐(間伐本数率40%を上限)を実施し、水源涵養機能の増進を図る。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
名張市

【補助率等】
補助事業ではないため、該当しない。

【箇所数】
2ヶ所(名張市長瀬、上比奈知地内)

【事業量】
水源林:事業実施面積 9.45ha

【事業実施期間】
平成30年10月～平成31年3月

【受益者、参加者、利用者数等】
長瀬地区住民 88名 (平成31年度4月27日時点)

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】

「三重県水源地域の保全に関する条例」に基づき水源地域に指定された森林を針広混交林として整備することにより、その多様な公益的機能を持続・効果的に発揮させるため。

【実施した効果】

強度間伐により下層植生の更新を促し、山林の持つ公益的機能が向上、特に水源涵養機能が向上した。

【実施箇所の今後の管理体制】

施設等整備ではないので、該当しない。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】

市のHPに事業内容を掲載することで、事業の意義や森林を整備する意識の啓発を図る。

【実施内容に対する住民等の反応】

補助事業実施者からは、「長年放置していた山奥の整備を実施することができ、大変ありがたい。」等の声をいただいた。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	名張市
番号	区分	事業名		
2	基本	水源林整備事業		
事業費	2,386,800 円(うち交付金	2,386,800 円	うち基金活用	0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】	委託契約
【実施方法の選定理由】	伊賀森林組合、長瀬地区において本事業に参加する23名の森林所有者と名張市の3者は環境づくり協定を締結している。そのため、森林整備は伊賀森林組合が実施する必要がある。
【契約方法と落札率または補助率等】	随意契約
【契約相手方の選定理由】	伊賀森林組合、長瀬地区において本事業に参加する23名の森林所有者と名張市の3者は環境づくり協定を締結している。そのため、森林整備は伊賀森林組合が実施する必要がある。
【事業費の積算根拠】	「平成30年度森林環境創造事業にかかる標準単価の決定について」を参考にした。

5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】	長瀬地区住民 195名 上比奈知区住民 133名
【管理責任者（森林所有者）への対応】	契約期間内は森林管理者が管理を行う。
【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】	該当しない。

6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】	
【実施中の実績】	「広報なばり」8月号に掲載した。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で取り組みについて放送した
【実施後の実績】	
【今後の見込】	平成31年度の「広報なばり」で実績を掲載予定。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で放送を予定。

7. 写真	
	別紙のとおり

8. その他特記事項	
------------	--

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	名張市
-----	-----

事業名	水源林整備事業
-----	---------

7. 写真



写真1
着工前



写真2
着工後



写真3
着工前



写真4
着工後



写真5
着工前



写真6
着工後

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
3	基本	県産材に親しむことができる木育推進事業
事業費	6,351,000 円(うち交付金	6,351,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的

現在、子ども、特に修学前児童にとっては、身の回りの机やいす、遊具などさまざまなものが身近にある木々からできることを実感する機会がほとんど無い状況である。
 県産材を用いた備品・遊具類を保育所等に設置し、身近な森林にある木々が工夫次第でさまざまな形に変えて利用できることを実感できるような環境整備をおこない、積極的に森林や木々に関わることができる発想豊かな子どもを育てる。

2. 事業実績概要

【事業内容】
 公立保育所等に三重県産材を使用した机、いす、玩具等を設置を行った。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
 名張市

【補助率等】
 補助事業ではないため、該当しない。

【箇所数】
 6ヶ所(大屋戸保育所、錦生保育所、薦原保育所、赤目保育所、名張幼稚園、桔梗南幼稚園)

【事業量】
 公立保育所及び公立幼稚園の児童用机43台、児童用椅子144脚、児童用棚 28台

【事業実施期間】
 平成30年10月～平成31年3月

【受益者、参加者、利用者数等】
 受益者:約360名 (保育所定員(平均) 約60名 × 6ヶ所)

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
 保育所等を担当する部署(福祉子ども部保育・幼稚園室)が、各保育所に要望調査を実施し、選定した。

【実施した効果】
 保育所、幼稚園での授業・行事等に利用し、多くの児童が木製の机椅子に触れ合う機会を創出できた。

【実施箇所の今後の管理体制】
 保育所備品として市(各保育所等)が管理していく。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
 備品の購入事業であり該当しない。

【実施内容に対する住民等の反応】
 保育所の職員や保護者等からは日常から木製品の木の温かみに触れる機会が増えること、危険性に配慮し、角が丸く加工されていることから好評を得た。

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	名張市
番号	区分	事業名		
3	基本	県産材に親しむことができる木育推進事業		
事業費	6,351,000 円(うち交付金		6,351,000 円	うち基金活用 0 円)
4. 効率性				
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市が購入。				
【実施方法の選定理由】 公立保育所等備品の購入であるため。				
【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札 落札率:85.22%				
【契約相手方の選定理由】 一般競争入札				
【事業費の積算根拠】 参考見積りによる。				
5. 公益性（波及度）				
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 受益者:約360名（保育所定員(平均)約60名 × 6ヶ所)				
【管理責任者（森林所有者）への対応】 保育所の管理者である市が管理していく。				
【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 保育所備品であるため、転用等が想定されず、該当しない。				
6. 周知実績と今後の周知				
【実施前の実績】				
【実施中の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で取り組みについて放送した				
【実施後の実績】				
【今後の見込】 平成31年度の「広報なばり」で実績を掲載予定。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で放送を予定。				
7. 写真				
別紙のとおり				
8. その他特記事項				

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 名張市

事業名 県産材に親しむことができる木育推進事業

7. 写真

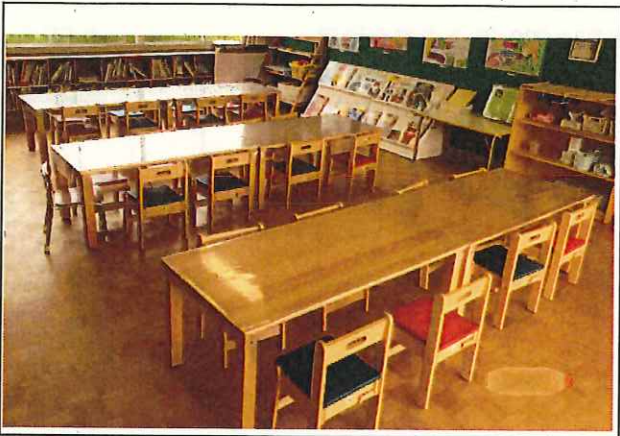


写真1

県産材を使用した備品を導入した保育所の様子



写真2

県産材を使用した机



写真3

県産材を使用した棚



写真4

県産材を使用した椅子



写真5

県産材を使用した棚



写真6

県民税活用の周知状況(机)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
番号	区 分	事 業 名	
4	基本	森林公園等環境活用整備事業	
事業費	600,000 円(うち交付金	600,000 円	うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的
市民の憩いの場である森林公園などを地域住民らによるボランティアで整備することにより、住民の森林や緑に対する理解をさらに深めるとともに、自然に親しむ豊かな生活環境を作る。

2. 事業実績概要
【事業内容】
 ①東山ふれあいの森:多くの住民が自然に親しむ公園として利用できるよう、下草刈り、倒木等の整理及び遊歩道整備を実施した。
 ②桔梗が丘10号公園:森林環境教育や地域の植樹イベントなどに利用できるよう、ナラ枯れなどによる枯れ木の伐採や遊歩道整備などを行った。また、自然に親しむ取組みとして、地域住民約80名が参加し、植樹を行った。
【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
 地域づくり組織(ひなち地域ゆめづくり委員会、桔梗が丘自治連合協議会)
【補助率等】
 定額補助(上限300千円)(東山ふれあいの森、桔梗が丘10号公園)
【箇所数】
 2箇所
【事業量】
 東山ふれあいの森:17.08ha 遊歩道・駐車場の整備、立木の除去・剪定、除草、注意喚起看板設置
 桔梗が丘10号公園:3.2ha 枯れ木の伐倒、植樹イベントでの植樹、遊歩道の整備
【事業実施期間】
 平成30年5月～平成31年3月
【受益者、参加者、利用者数等】
 整備によって森林に親しむ豊かな生活環境が向上する地域住民:
 比奈知地域:人口 1,267 人、592 世帯 桔梗が丘:人口 13,773 人、5,784 世帯(人口統計資料)

3. 有効性
【実施箇所の選定理由】
 ・地域づくり組織からの補助申請箇所について、職員が書類、聞き取り、現地確認等により現状を確認し、実施の必要性を検討して交付を決定している。
【実施した効果】
 公園整備を住民主体の地域づくり活動の一環として実施することにより、愛着や親しみが生まれ、それによって優しく公園を利用し、市民がこころ豊かな生活が送れるようになった。
【実施箇所の今後の管理体制】
 今回の整備によって、身近な森林公園の整備の必要性を再認識しており、今後も引き続き、地域づくり組織によって実施後の状況が保たれるよう管理される。
【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
 東山ふれあいの森は森林環境教育推進事業で桔梗が丘小学校の森林環境教育に活用された。また、森林公園が整備されたことにより、地域住民が公園をさらに活用し易くなった。
【実施内容に対する住民等の反応】
 地域づくり組織からは、「今回の補助によって、イベントや整備活動を通じて地域住民の交流を深めることができた。」「子どもたちの森林環境教育に活用することができ、やりがいを感じた。」との声をいただいている。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名
4	基本	森林公園等環境活用整備事業
事業費	600,000 円(うち交付金	600,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】</p> <p>・補助事業</p> <p>【実施方法の選定理由】</p> <p>地域住民が自ら整備することにより、地域で親しまれ、使いやすい森林公園になる。また、地域住民が公園に愛着を持つことで、より公園を大切にしていってきかけとなる。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】</p> <p>・補助率：定額補助（森林公園等を地域づくり組織が自ら整備し、維持し、又は管理する事業に要する経費）</p> <p>【契約相手方の選定理由】</p> <p>補助事業であるため、該当しない。</p> <p>【事業費の積算根拠】</p> <p>・森林公園等を地域づくり組織が自ら整備し、維持し、又は管理する事業に要する経費を補助対象としており、職員が書類により支出内容を確認している。</p>
--------	--

5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】</p> <p>整備によって森林に親しむ豊かな生活環境が向上する地域住民： 比奈知地域：人口 1,267 人、592 世帯 桔梗が丘：人口 13,773 人、5,784 世帯（人口統計資料）</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】</p> <p>土地の所有者が名張市であり、地域づくり組織との調整については問題はない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】</p> <p>実施箇所は市の所有地や都市公園のため、転用等の可能性は無い。</p>
-------------	---

6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】</p> <p>【実施中の実績】</p> <p>「広報なばり」8月号に掲載した。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で取り組みについて放送した</p> <p>【実施後の実績】</p> <p>【今後の見込】</p> <p>平成31年度の「広報なばり」で実績を掲載予定。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で放送を予定。</p>
---------------	---

7. 写真	別紙のとおり
-------	--------

8. その他特記事項	
------------	--

対策区分 5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名 名張市

事業名 森林公園等環境活用整備事業

7. 写真



写真1

伐採作業【東山ふれあいの森】



写真2

注意喚起看板設置【東山ふれあいの森】



写真3

植樹後状況【桔梗が丘10号公園】

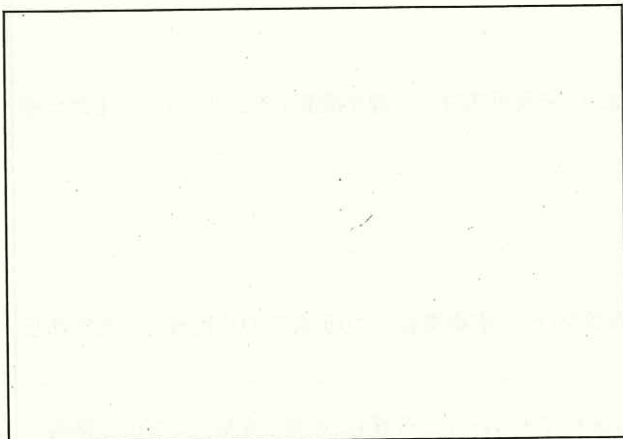


写真5



写真4

除草作業【桔梗が丘10号公園】

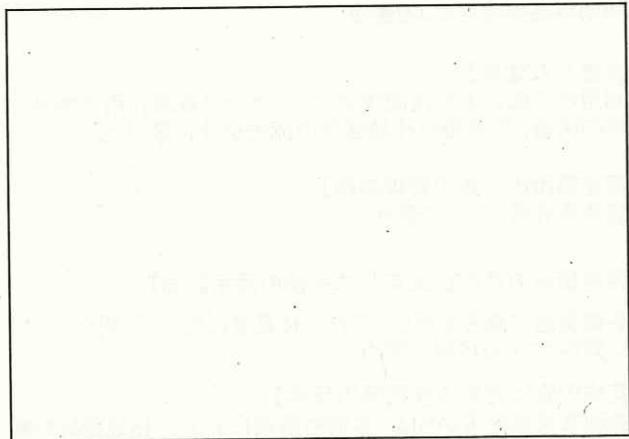


写真6

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	名張市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
5	基本	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
事業費	690,875 円(うち交付金	508,915 円 うち基金活用 160,051 円)

1. 事業の目的

搬出困難等で森林内にある未利用間伐材を名張市内の森林から搬出及び運搬する経費の支援を助成することで搬出を促進し、木質バイオマス燃料として活用するとともに、水源涵養等の森林の持つ多面的機能の向上を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】
木質バイオマスの促進を図るため、未利用間伐材を名張市内の山林から伊賀管内のFITに基づく木質バイオマス燃料買取実施場所まで搬出及び運搬に要する経費を助成する。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
名張市内に住所を有する、もしくは森林を保有し、名張市内の森林において木質バイオマス用未利用間伐材の非営利搬出を行う者として名張市に登録した者。

【補助率等】
定額補助(2,500円/トン)

【箇所数】
補助事業実施者:4名
整備が行われた山林:4箇所

【事業量】
未利用間伐材の搬出 276.35トン

【事業実施期間】
平成30年4月～平成31年3月

【受益者、参加者、利用者数等】
受益者:補助事業実施者 4名

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
補助事業実施者により選定

【実施した効果】
利用率の低い未利用間伐材のバイオマス資源利用が推進されるた。また、未利用残材の処理を推進することにより、水土保持機能の回復、災害時の林地残材の流失防止に繋がった。

【実施箇所の今後の管理体制】
森林所有者によって管理

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
事業実施写真を活用し、市内の林業者に対し、説明会やチラシを配布等を行い、事業実施により災害時の林地残材の流出防止に繋がることの広報に努める。

【実施内容に対する住民等の反応】
補助事業実施者からは、本補助事業によって「林地残材の搬出に取り組みやすくなった。今後もこの補助を活用して山の整備を行いたい」といった意見があった。

対策区分	4. 木の薫る空間づくり		市町名	名張市
番号	区分	事業名		
5	基本	未利用間伐材バイオマス利用推進事業		
事業費	690,875 円(うち交付金	508,915 円	うち基金活用	160,051 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 補助事業</p> <p>【実施方法の選定理由】 補助事業のため該当しない。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 補助率:定額補助(2,500円/トン) 補助対象事業費:未利用間伐材の搬出及び運搬経費を支援することに要する経費</p> <p>【契約相手方の選定理由】 補助事業のため該当しない。</p> <p>【事業費の積算根拠】 名張市内の山林から搬入先事業所までの間伐材の搬出・運搬経費を上回らない額。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 受益者:補助事業実施者 7人</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 森林所有者によって管理</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】</p> <p>【実施中の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で取り組みについて放送した</p> <p>【実施後の実績】</p> <p>【今後の見込】 平成31年度の「広報なばり」で実績を掲載予定。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で放送を予定。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分 4. 木の薫る空間づくり

市町名 名張市

事業名 未利用間伐材バイオマス利用推進事業

7. 写真

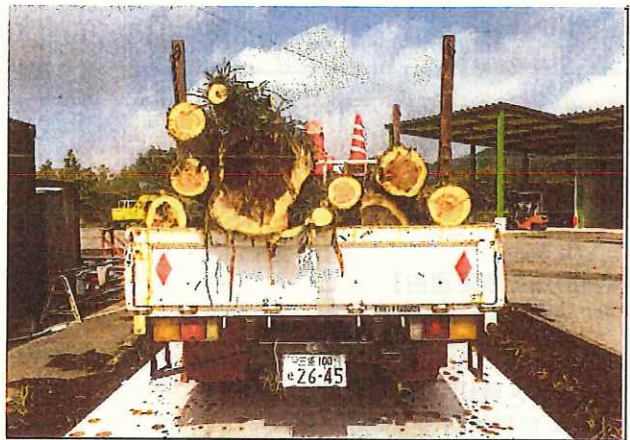
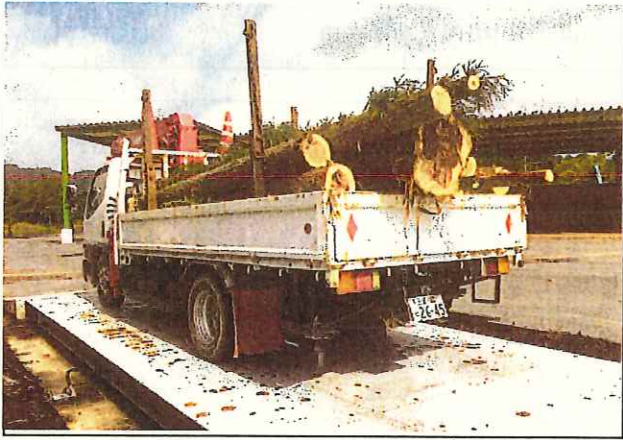


写真1

計測状況

写真2

計測状況



写真3

搬入状況

写真4

PRのぼり旗

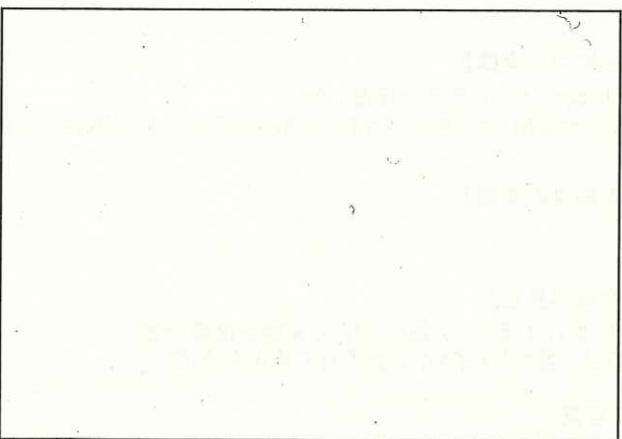
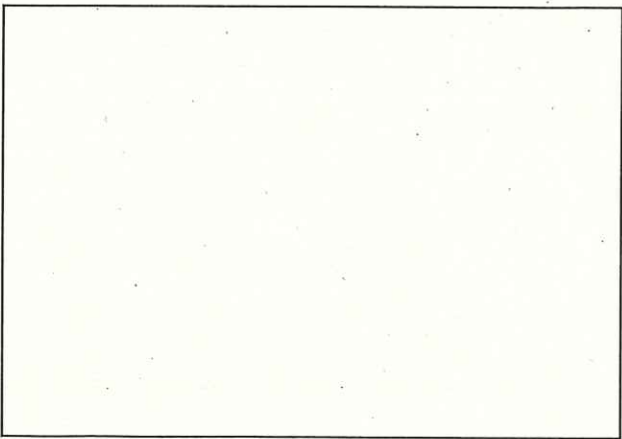


写真5

写真6

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	名張市
番号	区分	事業名		
6	基本	人家裏危険木伐採事業		
事業費	1,872,320 円(うち交付金	1,872,320 円	うち基金活用	0 円)

1. 事業の目的	人家裏にある危険木の伐採をすることで、災害を未然に防止し住民の通常の暮らしの安心・安全を図る。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 人家裏にあり、災害時等に倒木の危険がある木で、おおむね人家と木との距離が樹高以下の木の伐採について、伐採に要する費用のうち1本あたり10,000円以内で助成を行った。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 地域住民</p> <p>【補助率等】 1本あたり10,000円以内での補助</p> <p>【箇所数】 7箇所</p> <p>【事業量】 272本の危険木を伐採</p> <p>【事業実施期間】 平成30年4月～平成31年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 7世帯</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 補助事業申請から人家裏にあり、災害時等に倒木の危険がある木で、おおむね人家と木との距離が樹高以下の木を選定</p> <p>【実施した効果】 災害時等に人家に危険を及ぼす恐れのある樹木の伐採により、災害を未然に防止し、住民の通常の暮らしの安心・安全が確保された。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 森林所有者によって管理</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 実施前後の写真を市HPへ掲載し、当該県民税の意義の周知を図る。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 補助事業実施者からは、本補助事業によって「実施前は災害のたび倒木の心配をしていたが、今では安全に生活をおくっている。」などの反応があった。</p>

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
------	-----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
6	基本	人家裏危険木伐採事業
事業費	1,872,320 円(うち交付金	1,872,320 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 補助事業</p> <p>【実施方法の選定理由】 補助事業のため該当しない。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 1本あたり10,000円以内での補助</p> <p>【契約相手方の選定理由】 補助事業のため、該当しない。</p> <p>【事業費の積算根拠】 参考見積りによる。</p>
--------	---

5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 7世帯</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 森林所有者によって管理</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 該当しない。</p>
-------------	---

6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】</p> <p>【実施中の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で取り組みについて放送した</p> <p>【実施後の実績】</p> <p>【今後の見込】 平成31年度の「広報なばり」で実績を掲載予定。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で放送を予定。</p>
---------------	---

7. 写真	別紙のとおり
-------	--------

8. その他特記事項	
------------	--

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり
------	----------------

市町名	名張市
-----	-----

事業名	人家裏危険木伐採事業
-----	------------

7. 写真



写真1
事業実施後(神屋)



写真2
事業実施後(東田原)

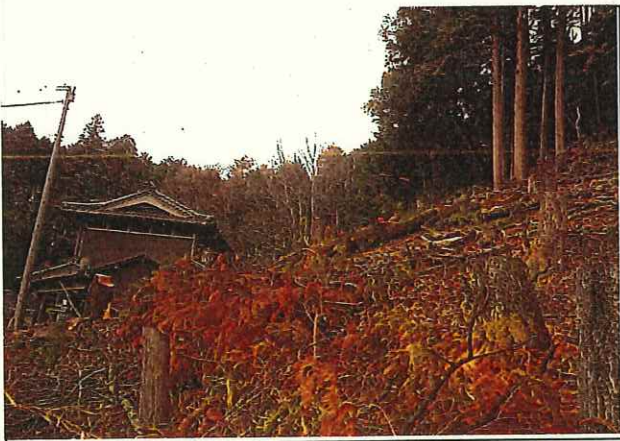


写真3
事業実施後(奈垣)



写真4
事業実施後(奈垣)



写真5
事業実施後(結馬)



写真6
事業実施後(東田原)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名
7	基本	学校林整備事業
事業費	500,000 円(うち交付金	500,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的
 これまで放置され、荒廃が進んでいる学校林を平成28年度より継続して整備することにより、小学生が学校生活において森林に親しむ豊かな環境を再生し、森林や緑に対する理解を深める機会を創出する。

2. 事業実績概要

【事業内容】
 小学校の荒廃している学校林において、除間伐や枯損木の処理、遊歩道の整備、木製の机・椅子の設置などを行った。さらに、整備した学校林において、森林環境教育活動を実施した。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
 薦原地域づくり委員会

【補助率等】
 全額補助

【箇所数】
 1ヶ所(薦原小学校 学校林)

【事業量】
 学校林までのアクセス道整備、山林広場整備
 「森の先生」を招いて間伐の見学や丸太運び体験の実施
 学校林面積 1,334㎡

【事業実施期間】
 平成30年7月～平成31年3月

【受益者、参加者、利用者数等】
 受益者：学校林を活用する児童、PTA、地域団体 約200名

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
 薦原小学校の学校林は1箇所しかないため。

【実施した効果】
 学校林を整備したことにより、平成31年1,2月に学校林を利用して森林環境教育を行うことができた。

【実施箇所の今後の管理体制】
 学校林は今後も地域づくり組織等により、継続的に整備していく。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
 学校林は今後も授業で利用していくとともに、学校と地域づくり組織は、今後も継続して整備し、様々な森林体験的活動を行っていく方針である。

【実施内容に対する住民等の反応】
 参加児童は林業体験をする貴重な機会となった。学校関係者、地域ボランティア多く参加し、整備した学校林を教育活動を行うことができる有益な場とすることができた。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名
7	基本	学校林整備事業
事業費	500,000 円(うち交付金)	500,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 補助事業</p> <p>【実施方法の選定理由】 補助事業のため該当しない。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 全額補助</p> <p>【契約相手方の選定理由】 補助事業のため該当しない。</p> <p>【事業費の積算根拠】 地域づくり組織が徴取した参考見積りによる。</p>
--------	--

5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 受益者：学校林を活用する児童、PTA、地域団体 約200名</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 所有者から学校林として継続使用することについて了承を得ており、今後も学校林として学校や地域が適切に管理していく。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 既に何十年に渡り学校林として提供を受けており、今後も学校林として学校授業などで継続利用していく予定であり、転用などは想定していない。</p>
-------------	--

6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 のぼり旗を立てることで県民税を活用することを周知した。</p> <p>【実施中の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で取り組みについて放送した。</p> <p>【実施後の実績】 みえ森づくりサポートセンターより「森の先生」を招き、森林環境教育を実施し、その様子が三重県が発行する『平成30年度 森林環境教育・木育推進活動事例集』に掲載された。</p> <p>【今後の見込】 平成31年度の「広報なばり」で実績を掲載予定。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で放送を予定。</p>
---------------	---

7. 写真	別紙のとおり
-------	--------

8. その他特記事項	
------------	--

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり
------	--------------------

市町名	名張市
-----	-----

事業名	学校林整備事業
-----	---------

7. 写真



写真1
間伐体験



写真2
森の先生による授業



写真3
林道整備による倒木除去



写真4
林道整備による倒木除去

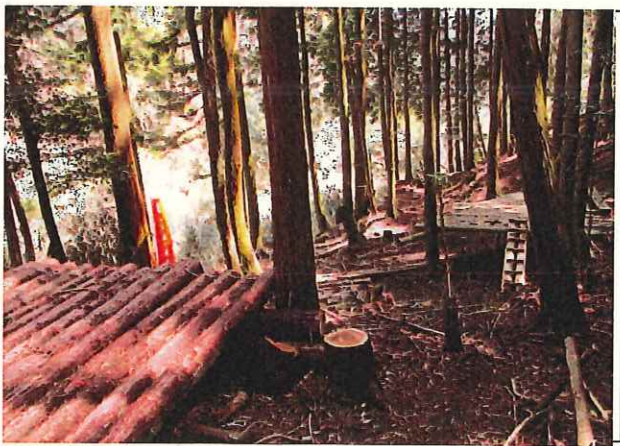


写真5
整備後の学校林



写真6
整備後の学校林

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市
番号	区分	事業名	
8	基本	森林環境教育推進事業	
事業費	100,000 円(うち交付金	100,000 円 うち基金活用	0 円)

1. 事業の目的

全国的に森林環境教育の重要性が高まる中で、初等教育の過程において森林・自然への理解や関心を高めるため、小学校が森林教育を行う場合に補助する。

2. 事業実績概要

【事業内容】
市内小学校が実施する、森林公園・学校林等でのフィールドワークなどの体験型学習及び森林の公益的機能に関する学習会等、森林環境教育として相応しい活動内容の事業に対し、活動費用の補助を行った。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
地域づくり組織(桔梗が丘自治連合協議会)

【補助率等】
全額補助 ただし、1校につき100,000円を上限とする。

【箇所数】
1校

【事業量】
1校(桔梗が丘小学校) 補助事業費:100,000円

【事業実施期間】
平成30年6月～平成30年10月

【受益者、参加者、利用者数等】
受益者:桔梗が丘小学校 4年生 約100名

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
桔梗が丘地内の小学生に自然環境の大切さ、里山の役割について学習の機会を設けるとともに、その保全の取り組みについて理解を深めるため。

【実施した効果】
東山ふれあいの森を自然環境に関するクイズラリーをしながら散策し、自然環境と里山の役割について学習することができた。

【実施箇所の今後の管理体制】
施設等整備ではなく、該当しない。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
名張市内の他の教育機関でも森林環境教育に取り組んでいく

【実施内容に対する住民等の反応】
児童は豊かな自然環境の中でのクイズラリーや木工体験に真剣に取り組み、ボランティアで参加した地域住民とも交流を深めることができた。先生方からも「貴重な機会をいただき大変ありがたい。今後も継続してほしい。」との声をいただいた。

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	名張市
番号	区分	事業名		
8	基本	森林環境教育推進事業		
事業費	100,000 円(うち交付金	100,000 円	うち基金活用	0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 補助事業</p> <p>【実施方法の選定理由】 補助事業のため該当しない。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 全額補助 ただし、1校につき100,000円を上限とする。</p> <p>【契約相手方の選定理由】 補助事業のため該当しない。</p> <p>【事業費の積算根拠】 桔梗が丘自治連合協議会が徴取した参考見積りによる。</p>
--------	---

5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 受益者:桔梗が丘小学校 4年生 約100名</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 施設等整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 施設等整備ではなく、該当しない。</p>
-------------	--

6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】</p> <p>【実施中の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で取り組みについて放送した</p> <p>【実施後の実績】</p> <p>【今後の見込】 平成31年度の「広報なばり」で実績を掲載予定。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で放送を予定。</p>
---------------	---

7. 写真	別紙のとおり
-------	--------

8. その他特記事項	
------------	--

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	名張市
-----	-----

事業名	森林環境教育推進事業
-----	------------

7. 写真



写真1

集合状況



写真2

クイズラリー

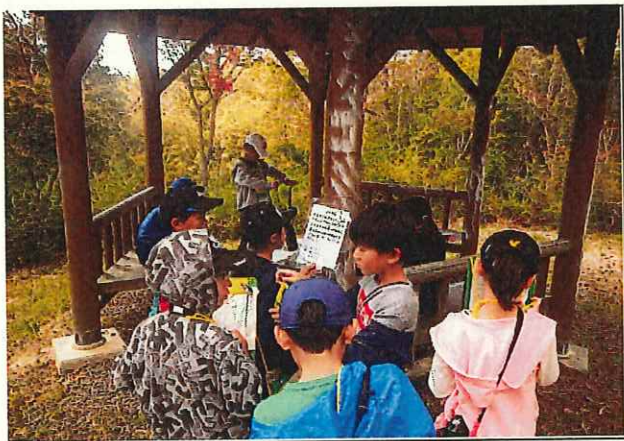


写真3

クイズラリー



写真4

クイズラリー



写真5

木工体験

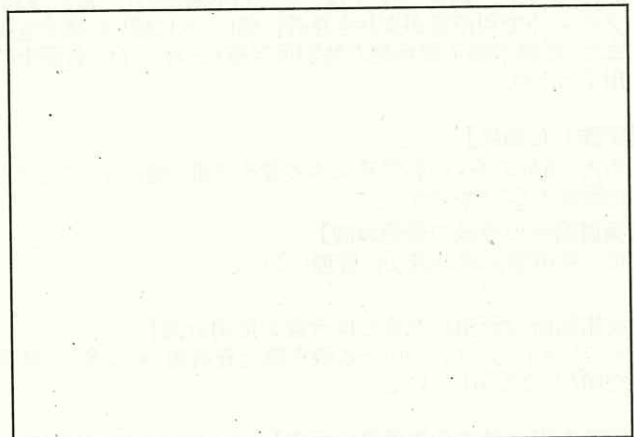


写真6

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	名張市
番号	区分	事業名	
9	基本	公共建築物木質化事業	
事業費	8,972,640 円(うち交付金	8,162,808 円 うち基金活用	8,162,808 円)

1. 事業の目的	<p>三重県産材を活用して公共施設を木質化し、木の薫る空間を創出することで、市民をはじめとする多くの利用者が木に親しむ場を提供した。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】</p> <p>平成33年開催の「三重とこわか国体」陸上ホッケー競技場となるメイハンフィールドにおいては、三重県産材で観覧席を木質化することで、国体をはじめ今後多くのスポーツイベントで利用者が森林を身近に感じ、木に親しむ機会を提供した。また、名張市郷土資料館の特別展示室を木質化し、名張市の郷土の歴史の歩みと木材のつながりを感じる環境教育の場を創出した。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 名張市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではないため、該当しない。</p> <p>【箇所数】 2箇所(メイハンフィールド観覧席、郷土資料館特別展示室)</p> <p>【事業量】 メイハンフィールド観覧席 4,681,800円(木製観覧席 1式) 郷土資料館特別展示室 4,290,840円(内装の木質化 1,802,287円、木製棚等 1,989,962円、対象外工事 498,591円)</p> <p>【事業実施期間】 平成30年7月～平成31年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 平成30年度年間利用者数 メイハンフィールド 約45,000人 郷土資料館 約3,000人</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 メイハンフィールドについては、平成33年開催の「三重とこわか国体」陸上ホッケー競技場となり、国体をはじめ今後多くのスポーツイベントで利用者が森林を身近に感じ、木に親しむ機会を提供するため。 また、名張市郷土資料館の特別展示室については、名張市の郷土の歴史の歩みと木材のつながりを感じる環境教育の場を創出するため。</p> <p>【実施した効果】 市内・市外の多くの利用者に木の薫る空間を提供することで、森林に親しみ、森林・自然への理解と関心を深めることができる場を提供することができた。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 市の各所管部署が適切に管理していく。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 すでにメイハンフィールド・名張市郷土資料館ともに多くの利用者に活用されている。今後も森林を感じ、木に親しむことができる空間として活用していく。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 メイハンフィールドを利用した方からは、「今までのプラスチック製のイスから木製に変わったことで木の温もりを感じられる。」等の感想をいただき、名張市郷土資料館を利用した方からは、「部屋全体が木に包まれていて木のいい匂いでとても居心地が良い。何度でも通いたい。」等の感想をいただいている。</p>

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	名張市
番号	区分	事業名	
9	基本	公共建築物木質化事業	
事業費	8,972,640 円(うち交付金	8,162,808 円	うち基金活用 8,162,808 円)
4. 効率性			
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 一般競争入札			
【実施方法の選定理由】 名張市建設工事等入札実施要領に基づく			
【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札			
【契約相手方の選定理由】 落札			
【事業費の積算根拠】 業者見積を参考にした。			
5. 公益性（波及度）			
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 平成30年度年間利用者数 メインフィールド 約45,000人 郷土資料館 約3,000人			
【管理責任者（森林所有者）への対応】 名張市			
【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 該当しない。			
6. 周知実績と今後の周知			
【実施前の実績】 のぼり旗を立てることで県民税を活用することを周知した。			
【実施中の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で取り組みについて放送した			
【実施後の実績】 県民税利用の周知看板を設置することで周知を行った。			
【今後の見込】 平成31年度の「広報なばり」で実績を掲載予定。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で放送を予定。			
7. 写真			
別紙のとおり			
8. その他特記事項			

対策区分	4. 木の薫る空間づくり
------	--------------

市町名	名張市
-----	-----

事業名	公共建築物木質化事業
-----	------------

7. 写真



写真1
郷土資料館 木質化

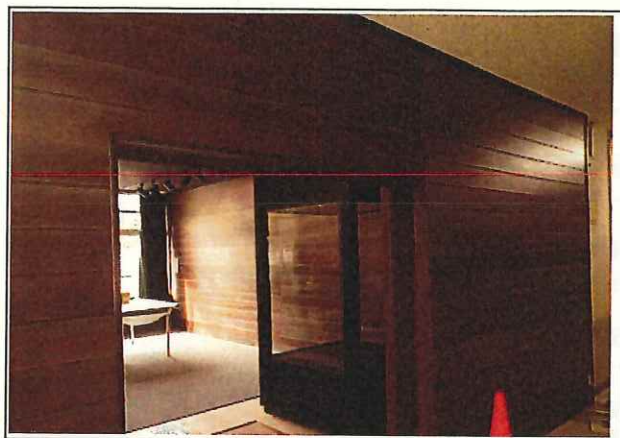


写真2
郷土資料館 木質化



写真3
メイハンフィールド 着工前



写真4
メイハンフィールド 着工後



写真5
周知看板



写真6
周知看板

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
番号	区分	事業名	
10	基本	桜並木保全管理事業	
事業費	300,000 円(うち交付金	300,000 円	うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的

樹勢が衰え開花状況が悪くなった名張中央公園の桜並木に地域住民らがボランティアで施肥することにより、住民の森林や緑を思う気持ちの醸成や身近な緑に親しむ機会を創出する。

2. 事業実績概要

【事業内容】
 毎年、多くの市民が参加する「名張桜まつり」の会場である名張中央公園の桜並木の樹勢が衰え、開花状況が悪くなってきている。地域住民から子供を中心に参加者を募り、ボランティア活動によって施肥を行うことで、自然を思う気持ちの醸成や樹木も適切に管理しなければ枯れてしまうこと、身近な森林に親しむためには手入れが必要であることを実感できる機会を創出する。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
 名張市

【補助率等】
 補助事業でないため該当しない。

【箇所数】
 1か所(名張中央公園)

【事業量】
 桜並木(約600m)への施肥料 300,000円

【事業実施期間】
 平成30年10月

【受益者、参加者、利用者数等】
 名張中央公園で毎年開催される「名張桜まつり」の参加者 約30,000人

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
 毎年、多くの市民が参加する「名張桜まつり」において、来場者に美しい桜を見ることで自然に親しんでもらうため。

【実施した効果】
 多くの市民ボランティアの参加により、樹勢の衰えた桜の木に施肥を実施することができた。

【実施箇所の今後の管理体制】
 市及び名張桜まつり実行協議会において適切に管理していく。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
 今後も名張桜まつりの開催を通じて、市民が自然に親しむことのできる機会を創出していく。

【実施内容に対する住民等の反応】
 参加したボランティアからは、「桜満開プロジェクトに参加して、名張の春の風物詩である桜まつりの開催に一役買うことができて良かった。」との声も聞かれた。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名
10	基本	桜並木保全管理事業
事業費	300,000 円(うち交付金	300,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市民からボランティアを募り、施肥を実施</p> <p>【実施方法の選定理由】 桜並木の管理を通じて、参加者に自然の大切さや管理の必要性等を理解いただくため、ボランティアを募集して実施することとした。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約</p> <p>【契約相手方の選定理由】 肥料取扱事業者への随意契約</p> <p>【事業費の積算根拠】 事業者の参考見積による</p>
---------------	--

5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 名張中央公園で毎年開催される「名張桜まつり」の参加者 約30,000人</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 市管理物件のため、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 施設等整備ではなく、該当しない。</p>
--------------------	---

6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】</p> <p>【実施中の実績】 「広報なばり」8月号に掲載した。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で取り組みについて放送した</p> <p>【実施後の実績】</p> <p>【今後の見込】 平成31年度の「広報なばり」で実績を掲載予定。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で放送を予定。</p>
----------------------	---

7. 写真	別紙のとおり
--------------	--------

8. その他特記事項	
-------------------	--

対策区分 5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名 名張市

事業名 桜並木保全管理事業

7. 写真

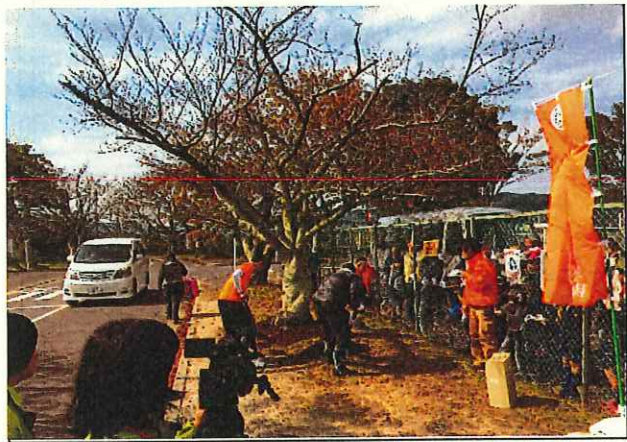


写真1

施肥状況



写真2

施肥状況



写真3

施肥状況



写真4

「みえ森と緑の県民税」を活用した事業であることをしめした表示



写真5

整備された桜並木の様子

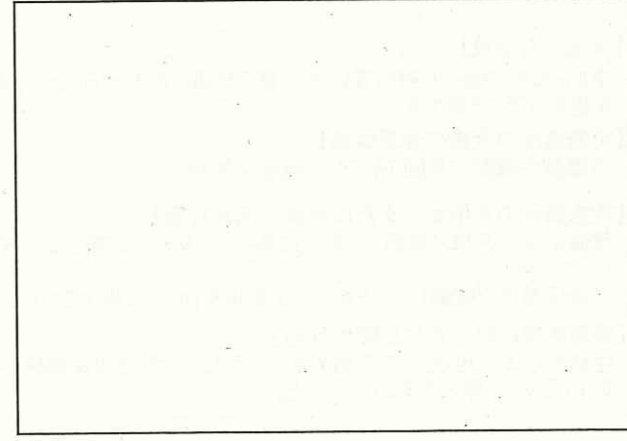


写真6

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
11	特別	朝日公園木製遊具整備事業
事業費	10,161,720 円(うち交付金	10,000,000 円 うち基金活用 4,000 円)

1. 事業の目的	朝日公園に三重県産材を用いた木製遊具を整備することで、利用する子供たちが木に親しみ、木の温かみを感じることができる機会を提供する。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 朝日公園は市内の多くの子供たち、保護者に利用され、子育てのコミュニティの場として親しまれてきたが、遊具の老朽化と危険性から遊具が撤去され広場となっている。子供たちが遊ぶ遊具に木育の観点から木製の遊具を整備することで、多くの子供たちに木に触れる場を提供し、森林の木々が遊具へと形を変えて利用できることを理解し、森林を身近に感じる環境教育の役割を成す公園として整備する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 名張市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではないため、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1ヶ所(朝日公園内)</p> <p>【事業量】 木製遊具 1基、看板設置 1式、木製背伸ばしベンチ 1基、木製ベンチ 3基</p> <p>【事業実施期間】 平成30年4月～平成31年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 受益者:公園を利用する児童 総数:588名 内訳(名張小学校児童数:389名 名張幼稚園:53名 昭和保育園:121名 第二かな保育:16名 なばりひやわんこども園:9名)</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 朝日公園は市内の多くの子供たち、保護者に利用され、子育てのコミュニティの場として親しまれてきたが、遊具の老朽化と危険性から遊具が撤去され広場となっていた。木製の遊具を整備することで、多くの子供たちに木に触れる場を提供し、森林の木々が遊具へと形を変えて利用できることを理解し、森林を身近に感じる環境教育の役割を成す公園として整備するため。</p> <p>【実施した効果】 市内・市外の多くの利用者に木の薫る空間を提供することで、森林に親しみ、森林・自然への理解と関心を深めることができる場を提供することができた。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 市職員が適度に見回りをを行い、適切に管理する。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 整備から2ヶ月ほど経過し、すでに多くの子供たちに親しまれる遊具となっており、森林を身近に感じる子育てのコミュニティの場となっている。 今後は遊具を整備したことをラジオ番組やHPで広報することにより利用者を増加させていく。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 住民からは「近年ただの広場であった所に、木製遊具を整備してもらったことで、子供たちが身近に木に触れられる場となり大変ありがたい。」等の声をいただいた。</p>

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
11	特別	朝日公園木製遊具整備事業
事業費	10,161,720 円(うち交付金	10,000,000 円 うち基金活用 4,000 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 委託契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 名張市建設工事等入札実施要領に基づく</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札</p> <p>【契約相手方の選定理由】 落札</p> <p>【事業費の積算根拠】 業者見積を参考にした。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 受益者：公園を利用する児童 総数：588名 内訳（名張小学校児童数：389名 名張幼稚園：53名 昭和保育園：121名 第二かな保育：16名 なばりひやわんこども園：9名）</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 名張市</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 看板を設置し、県民税活用事業で木製遊具の整備を行うことを表示した。</p> <p>【実施中の実績】 工事看板に県民税活用事業であることを記載した。 県民税ののぼりを設置し周知を図った。</p> <p>【実施後の実績】 森林の役割について記載した看板に、県民税活用事業であると表示を行った。</p> <p>【今後の見込】 平成31年度の「広報なばり」で実績を掲載予定。 ラジオ番組「マイタウンなばり」で放送を予定。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	名張市
-----	-----

事業名	朝日公園木製遊具整備事業
-----	--------------

7. 写真



写真1
全景



写真2
全景



写真3
木製複合遊具



写真4
案内看板



写真5
背伸ばしベンチ



写真6
木製ベンチ

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本	親子ではじめる木育推進事業
事業費	2,963,605 円(うち交付金	2,963,605 円 うち基金活用 193,168 円)

<p>1. 事業の目的</p> <p>「木育」の推進。 古くから「木」が身近にある伊賀市では、健やかな子どもの成長と地球環境の維持に役立つ適切な木材の利用推進をはかり、地域そのものの価値を高める。</p>
<p>2. 事業実績概要</p> <p>【事業内容】 「木育」と「食育」を関連させた事業として、親・子どもに木のぬくもりを共有できるものとして、出生時にフォトスタンド、1歳半検診の時に、健康推進課による木育リーフレット配布に合わせて、木製(伊賀産材)のスプーンをプレゼントする。そして、3歳時検診の時に、子ども用の木(三重県産材)のお箸をプレゼントする。</p> <p>【実施主体(補助事業は補助事業実施主体)】 伊賀市</p> <p>【補助率等】 補助事業でなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 市内全域</p> <p>【事業量】 フォトスタンド 出生時 700個 木のスプーン 1歳半検診時 696本 木のお箸 3歳児検診時 682膳</p> <p>【事業実施期間】 平成30年4月2日から平成31年3月29日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 新生児 700人 1歳半検診時 696人 3歳時検診時 682人</p>
<p>3. 有効性</p> <p>【実施箇所の選定理由】 乳幼児期から親子で木と触れ合える機会を提供するため。</p> <p>【実施した効果】 乳幼児期から親子で木と触れ合いを通じ「木育」「食育」を組み合わせた健全育成ができた。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 施設等整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 プレゼント配布時に木育について掲載したチラシを配布した。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 実績書写真のとおり 「木育」のチラシと共に直接プレゼントしており、三重県産材及び伊賀産材であるため好評が続いている。</p>

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	伊賀市
番号	区分	事業名		
1	基本	親子ではじめる木育推進事業		
事業費	2,963,605 円(うち交付金	2,963,605 円	うち基金活用	193,168 円)
4. 効率性				
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 入札、物品の購入、配布				
【実施方法の選定理由】 伊賀産材、三重県産材を指定、みえ森と緑の県民税を活用した事業であることを伝え、可能な限り手渡しできる方法を選定。				
【契約方法と落札率または補助率等】 木のスプーン、木のお箸については一般競争入札、木製フォトフレームについては指名競争入札				
【契約相手方の選定理由】 会計規則に基づき、木のスプーン、木のお箸については一般競争入札、木製フォトフレームについては指名競争入札。（市内の木材取引実績のある事業者）				
【事業費の積算根拠】 去年度実績及び参考見積により積算し入札。				
5. 公益性（波及度）				
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 出生され、伊賀市に住民登録された児童を対象。 保健師より「木育」のチラシと共に直接プレゼント 検診対象児全員。				
【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。				
【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 転用等は想定されず、該当しない。				
6. 周知実績と今後の周知				
【実施前の実績】 「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業の実施について、ケーブルテレビの行政放送にて放映した。				
【実施中の実績】 「木育」のチラシと共に直接プレゼントしており好評である。 アンケートを実施し、みえ森と緑の県民税の趣旨の周知を行った。				
【実施後の実績】 親子で森のことを考えてもらうきっかけとなっている。 「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業の実施について、ケーブルテレビの行政放送にて放映した。				
【今後の見込】 木の薫りを直接感じてもらい、木育のきっかけにするため今後も継続する方向性である。				
7. 写真				
別紙のとおり				
8. その他特記事項				

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	伊賀市
-----	-----

事業名	親子ではじめる木育推進事業
-----	---------------

7. 写真



写真1
フォトフレーム(表面)



写真2
フォトフレーム(裏面)
「みえ森と緑の県民税」のロゴ入り



写真3
木のスプーンと木のお箸



写真4
納品検査



写真5
フォトフレーム配布文

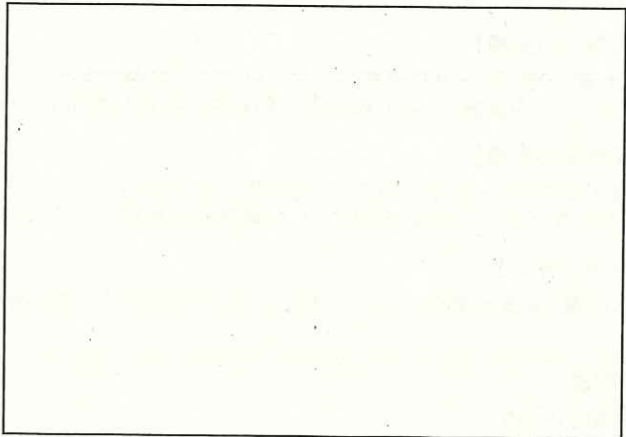


写真6

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	伊賀市
番号	区分	事業名		
2	基本	みんなの里山整備活動推進事業		
事業費	4,932,962 円(うち交付金	4,932,962 円	うち基金活用	0 円)

1. 事業の目的
 地域住民の主体的な参加のもと、自治会等が行う地域や生活に密着した緑の環境づくりや里山・竹林の再生活動に対して支援する。

2. 事業実績概要

【事業内容】
 緑の環境づくりや生活に密着した里山・竹林の再生のための自治会等の地域住民によるボランティア活動に対して補助金を交付する。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
 地域住民が組織する自治会等の団体

【補助率等】
 対象活動の用具費等経費10/10以内(ただし、上限25万円/団体)

【箇所数】
 22箇所

【事業量】
 事業量:市内の自治会等 22団体で実施
 事業費:4,425,000円(補助金額)

【事業実施期間】
 平成30年4月2日から平成31年3月29日

【受益者、参加者、利用者数等】
 延べ参加者数 1,023人 整備面積 約21ha

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
 補助金交付申請による

【実施した効果】
 既存の森林整備事業では整備が難しい、暮らしに身近な里山や竹林の整備ができた。

【実施箇所の今後の管理体制】
 地域の里山として、実施主体の自治会等により適正に管理を行っていく。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
 参加者に森林整備の有用性についてのチラシやアンケートを配布し、森林整備に対する意識が高められた。

【実施内容に対する住民等の反応】
 住民参加による森林整備の必要性に対する理解が深まり、継続的に取り組みたいとの声もあった。

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市
------	----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
2	基本	みんなの里山整備活動推進事業
事業費	4,932,962 円(うち交付金	4,932,962 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 自治会等から提出された補助金交付申請を審査し、交付要綱に適合している場合は、補助金を支出する。</p> <p>【実施方法の選定理由】 里山や竹林を地域住民の手で再生していくため、補助金制度として運用している。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 対象活動の用具費等経費10/10以内(ただし、上限25万円/団体)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 該当なし</p> <p>【事業費の積算根拠】 対象活動の用具費等経費10/10以内(ただし、上限25万円/団体)</p>
--------	---

5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 実績報告書により、参加者数を把握。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 実施団体(自治会等)により、暮らしに身近な森林として継続的に管理。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 地域共有の場としての里山を事業対象としているため、転用等は想定されない。</p>
-------------	---

6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 事業募集時に、市のHPなどで「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」であることの周知をした。「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業の実施について、ケーブルテレビの行政放送にて放映した。</p> <p>【実施中の実績】 みえ森と緑の県民税による整備活動を示すのぼりの掲示を依頼し、県民税事業の周知活動の推進を行った。</p> <p>【実施後の実績】 参加者にチラシやアンケートを配布し、「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」であることを周知した。</p> <p>【今後の見込】 各自治会等への事業目的の理解促進や周知徹底を図ることにより、事業効果の向上を目指す。 実施結果などについて、市のHPなどで周知を行う。</p>
---------------	--

7. 写真	別紙のとおり
-------	--------

8. その他特記事項	<p>平成28年度実施:25団体 参加者数1,112人 整備面積 約26ha 平成29年度実施:23団体 参加者数1,289人 整備面積 約28ha</p>
------------	--

対策区分 2.暮らしに身近な森林づくり

市町名 伊賀市

事業名 みんなの里山整備活動推進事業

7. 写真



写真1

里山整備のようす



写真2

通行支障木伐採のようす



写真3

里山整備のようす



写真4

里山整備伐採活動のようす



写真5

里山における伐採活動のようす



写真6

里山における支障木伐採後の搬出作業のようす

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	伊賀市
番号	区分	事業名		
3	基本	伊賀の森っこ育成推進事業		
事業費	2,596,540 円(うち交付金	2,596,540 円	うち基金活用	0 円)

1. 事業の目的	
<p>森林環境への関心や要望が高まるなか、次代を担う子ども達の森林・林業への理解と関心を学校教育の場においても学習できるようにする。</p>	
2. 事業実績概要	
<p>【事業内容】 市内の小中学生を対象に森林環境教育に関する活動を実施する実行委員会等が実施する、森林のはたらきや森林・林業の歴史についての学習活動、木工利用、木工体験(竹材等も含む)、間伐体験、里山整備活動、植物・樹木観察、野生生物・昆虫観察など、森林・自然や木と関連した森林環境教育にふさわしい内容の活動に対して、活動費用を補助する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 市内の小中学生を対象に森林環境教育に関する活動を実施する実行委員会等</p> <p>【補助率等】 補助率:10/10 ※小学校を対象とする場合、6年生の学級数×10万円を、中学校を対象とする場合、3年生の学級数×10万円を交付上限とする。</p> <p>【箇所数】 19箇所</p> <p>【事業量】 事業量:市内小中学校 19校 76学級で実施 事業費:2,596,540円(補助金額)</p> <p>【事業実施期間】 平成30年4月2日から平成31年3月29日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 参加生徒児童数 1174人</p>	
3. 有効性	
<p>【実施箇所の選定理由】 補助金交付申請による</p> <p>【実施した効果】 市内に在学している小中学生が「森のせんせい」などの講師から、森のはたらきや林業について学習することができ、森林環境や木材等に関して知識理解を深めることが出来た。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 該当なし</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 取組の成果として、学級通信等への掲載や事後学習などが積極的に行われ、より効果的に事業を活用されている。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 各学校からは、児童生徒の森林に対する興味・関心・意欲が深まり、実生活に活かすことが出来ているとの声を多数頂いている。</p>	

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	伊賀市
番号	区分	事業名		
3	基本	伊賀の森っこ育成推進事業		
事業費	2,596,540 円(うち交付金	2,596,540 円	うち基金活用	0 円)

4. 効率性

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

実行委員会等から提出された補助金交付申請を審査し、交付要綱に適合している場合は、補助金を支出する。

【実施方法の選定理由】

森林環境教育等に対して意欲的な団体を選定する必要があるため、補助金制度として運用している。

【契約方法と落札率または補助率等】

補助率:10/10 ※小学校を対象とする場合、6年生の学級数×10万円を、中学校を対象とする場合、3年生の学級数×10万円を交付上限とする。

【契約相手方の選定理由】

該当なし

【事業費の積算根拠】

補助率:10/10 ※小学校を対象とする場合、6年生の学級数×10万円を、中学校を対象とする場合、3年生の学級数×10万円を交付上限とする。

5. 公益性（波及度）

【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】

実績報告書による。

【管理責任者（森林所有者）への対応】

個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。

【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】

行事等開催であるため、転用が想定されず、該当しない。

6. 周知実績と今後の周知

【実施前の実績】

「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業の実施について、ケーブルテレビの行政放送にて放映した。

【実施中の実績】

該当なし

【実施後の実績】

参加者を通じて、学校だよりやホームページで保護者や地域に対し、「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知を図った。

【今後の見込】

各学校等への周知取組徹底により、学校のホームページ等で周知を図る。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

平成28年度実績:市内小中学校 15校54学級 参加生徒児童数1,187人
平成29年度実績:市内小中学校 16校49学級 参加生徒児童数854人

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	伊賀市
-----	-----

事業名	伊賀の森っこ育成推進事業
-----	--------------

7. 写真



写真1

森林環境学習の様子



写真2

森林の生態系を学習する様子



写真3

森林アスレチックをととした森林環境学習



写真4

木工体験学習の様子(木材学習も含む)



写真5

森林環境学習の様子



写真6

落ち葉から木を考える学習の様子

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
番号	区分	事業名	
4	基本	地域の森と緑のつながり支援事業	
事業費	390,197 円(うち交付金)	390,197 円 うち基金活用	0 円)

1. 事業の目的
 地域住民と森・緑・木材等森の恵みとの関係が薄くなってきているため、地域の子供たち等が地域住民と共に森林・林業等への理解と関心を深めることを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】
 補助事業：住民自治協議会等が実施主体として、森・緑・木材と地域とのつながりを目的に、森や緑の学習活動として行う一般募集のイベント活動や地域で取り組む山林地域の振興に向けた研修会等に対して、必要な経費を補助した。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
 補助事業：地域住民自治協議会等

【補助率等】
 補助事業：10/10 ※5万円を交付上限とする。

【箇所数】
 補助事業：6箇所

【事業量】
 補助事業量：市内の住民自治協議会 6団体で実施
 補助事業量：276千円(補助金額)

【事業実施期間】
 平成30年4月2日～平成31年3月29日

【受益者、参加者、利用者数等】
 補助事業：参加者数 158人（6箇所）

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
 補助金交付申請による。

【実施した効果】
 地域主催により自然学習会や木工細工体験、森林整備に関する学習会などを開催することで地域住民の森林・林業等への理解と関心を高めることが出来た。

【実施箇所の今後の管理体制】
 施設等整備でなく、該当しない。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
 研修会参加者が地域住民自治協議会にその内容を持ち帰ることで、地域のさらなる森づくり活用の展開へとつなげる。

【実施内容に対する住民等の反応】
 地域における森林の大切さを知らせることが出来た。
 国産材の品質の高さを理解したほか、森林・林業等全般への理解・関心を高めた。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
4	基本	地域の森と緑のつながり支援事業
事業費	390,197 円(うち交付金	390,197 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 住民自治協議会等から提出された補助金交付申請を審査し、交付要綱に適合している場合は、補助金を支出する。多くの市民が集まるイベントに出店し、みえ森と緑の県民税事業のPRを行った。</p> <p>【実施方法の選定理由】 森林環境教育等に対して意欲的な団体を選定し、事業効果を高める必要があるため、補助金制度として運用している。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 補助事業:10/10 ※5万円を交付上限とする。</p> <p>【契約相手方の選定理由】 該当なし</p> <p>【事業費の積算根拠】 補助事業:10/10 ※5万円を交付上限とする。</p>
--------	---

5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 実績報告書により参加者を把握。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 行事等開催であるため、転用が想定されず、該当しない。</p>
-------------	---

6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 事業募集時に「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることを周知している。</p> <p>【実施中の実績】 のぼりや募集チラシで「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることを周知した。 みえ森と緑の県民税パネル展を開催やパンフレットの配布を行った。</p> <p>【実施後の実績】 交付確定書類と共に、「みえ森と緑の県民税」パンフレットを送付し、「みえ森と緑の県民税事業」のPRを推進した。</p> <p>【今後の見込】 市のホームページなどで事業実績とあわせて「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知を図る。</p>
---------------	---

7. 写真	別紙のとおり
-------	--------

8. その他特記事項	<p>平成28年度実績:市内住民自治協議会4団体 参加者数185人 平成29年度実績:市内住民自治協議会6団体 参加者数178人</p>
------------	--

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	伊賀市
-----	-----

事業名	地域の森と緑のつながり支援事業
-----	-----------------

7. 写真



写真1

林業学習のようす



写真2

林業学習会におけるPR及び林業POP

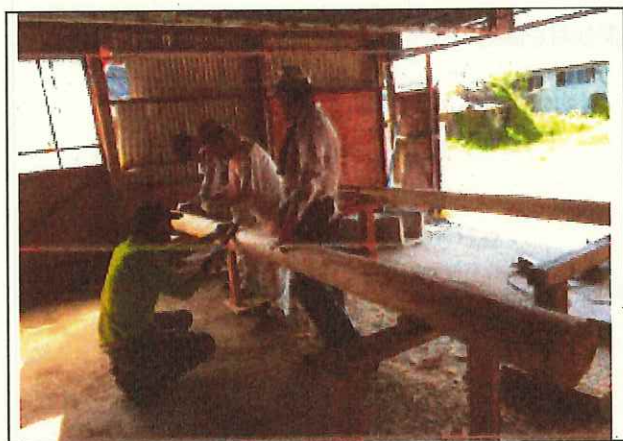


写真3

丸太加工研修の様子



写真4

丸太市場における研修風景



写真5

木工体験学習のようす

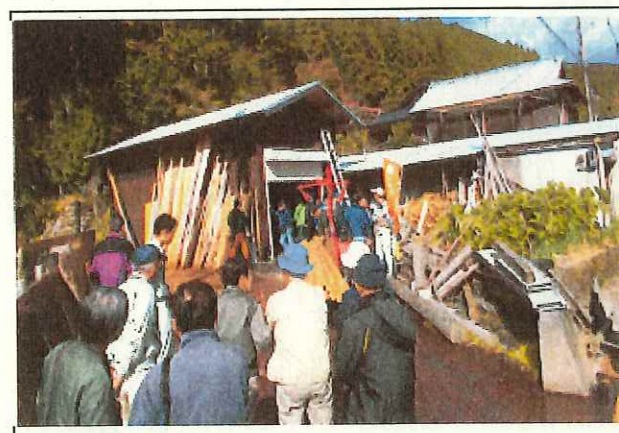


写真6

丸太加工場における研修会

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市
------	----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
5	基本	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
事業費	3,578,249 円(うち交付金	3,088,249 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的
 森林所有者による未利用間伐材の利用を推進することにより、木質バイオマス資源の有効活用を図ると共に、森林所有者の意識啓発、取組拡大や林地残材の減少を図り森林整備につなげる。

2. 事業実績概要

【事業内容】
 発電用チップに係る間伐材等由来の木質バイオマス証明材を、市内の木質バイオマス発電証明ガイドライン認定事業者に買い取ってもらうために必要な搬出及び運搬に要する経費の一部を助成する。
 推進事業：地域や大学と連携して、事業を担う地域の森林資源と作業体制の調査と計画づくりを行う。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
 補助事業：森林所有者等
 推進事業：市

【補助率等】
 補助率：間伐材等由来の木質バイオマス証明材 1t当り 2,500円
 ※当該年度における造林補助事業等の搬出材積として加算している間伐材を除く。

【箇所数】
 該当せず

【事業量】
 補助事業：未利用間伐材搬出 1,062t
 推進事業：地域の森林調査と計画づくり(500,000円)や研修の費用(424,774円)

【事業実施期間】
 補助事業：平成30年4月2日～平成31年3月29日
 推進事業：平成30年4月2日～平成31年3月29日

【受益者、参加者、利用者数等】
 ・森林所有者等搬出件数 36件
 ・森林の整備が進むことによる森林の持つ公益的機能の向上の恩恵を受ける市民
 ・推進事業 セミナー参加者

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
 補助金交付申請による

【実施した効果】
 土砂災害等に被害拡大につながる林地残材を減らすことにより、くらしの安心・安全を守る災害に強い森林づくりに寄与したほか、森林所有者等に森林整備の必要性に対する意識が高まった。

【実施箇所の今後の管理体制】
 施設等整備でなく、該当しない

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
 森林所有者自らが取り組むことをきっかけに、森林整備の必要性に対する意識が高まった。

【実施内容に対する住民等の反応】
 今年度助成を受けた複数の森林所有者などから継続的に取り組みたいとの声があった。

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市
番号	区分	事業名	
5	基本	未利用間伐材バイオマス利用推進事業	
事業費	3,578,249 円(うち交付金	3,088,249 円	うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 申請時に提出された補助金交付申請書を審査し、交付要綱に適合している場合は、補助金を支出する。</p> <p>【実施方法の選定理由】 森林整備の必要性に対する意識向上のため、補助金制度として運用している。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 補助率:未利用間伐材 1t当たり 2,500円</p> <p>【契約相手方の選定理由】 該当なし</p> <p>【事業費の積算根拠】 補助率:未利用間伐材 1t当たり 2,500円 間伐・搬出コスト未滿となるように補助率を設定。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 補助金の実績報告書により確認している。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 引き続き、森林所有者により管理することとしている</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 引き続き、森林が適正に管理されるよう指導している</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることをホームページ等に明記して募集を行っている。</p> <p>【実施中の実績】 みえ森と緑の県民税市町交付金事業であることをのぼり等で周知をした。</p> <p>【実施後の実績】 みえ森と緑の県民税市町交付金事業であることを市のホームページやケーブルテレビで広報をおこなった。</p> <p>【今後の見込】 この事業の趣旨をより理解していただくために、森林整備事業の地域説明会を行い、さらなる実施件数の増加を図る。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	平成29年度実績 未利用間伐材 874.4t 森林所有者等搬出者 13名

対策区分

2.暮らしに身近な森林づくり

市町名

伊賀市

事業名

未利用間伐材バイオマス利用推進事業

7. 写真



写真1

バイオマス推進研修会のようす



写真2

バイオマス搬出研修のようす



写真3

マルタピアでの搬出研修



写真4

バイオマスチップ加工場での研修



写真5

バイオマス補助金利用促進に向けた申請説明会

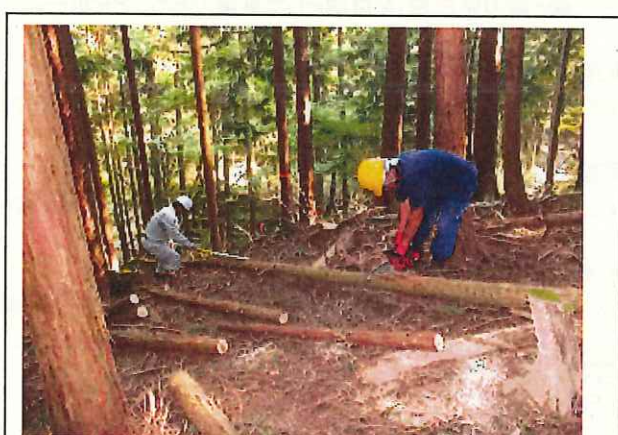


写真6

伐採研修会

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	伊賀市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
6	基本	森のやすらぎ空間整備事業
事業費	1,500,000 円(うち交付金	1,500,000 円 うち基金活用 円)

1. 事業の目的
 木の薫るやすらぎのある街づくりのため、市内の間伐材を利用して、交流施設に木製ベンチや、町家などの軒先にバッテリー床机を設置することにより、街歩きをする人々にやすらぎを与える。間伐材の利用推進を目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】
 中心市街地などの町家の軒先にバッテリー床机(ぱったりしろうぎ)を設置することに対する助成を行う。バッテリー床机の材料となる間伐材の伐採、搬出、製材、加工費用について一定の範囲内で助成し、町屋の管理者はこれを自由に使えるように軒先を提供し管理する。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
 事業実施主体:伊賀上野観光協会、ハイトピア伊賀

【補助率等】
 一定の範囲内で交付金100%

【箇所数】
 木製ベンチ:交流施設(ハイトピア伊賀)に1か所
 バッテリー床机:中心市街地や旧街道沿いの町屋など10か所

【事業量】
 高等学校の建築造形部と連携して木材利用の研修と伊賀産材の木製ベンチ製作 研修費 材料 工具等 500,000円
 バッテリー床机1基(設置費・説明看板込み 100,000円×10箇所)

【事業実施期間】
 平成30年4月1日から平成31年3月29日

【受益者、参加者、利用者数等】
 中心市街地旧街道沿い観光客等 主要施設等約60万人 及び市民

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
 補助金交付申請による。観光客の休憩等利便に供するため、誰でも自由に使える場所や、旧街道など利用頻度の高いと思われるところを実施主体が選定した。

【実施した効果】
 三重県産の木の肌さわりを楽しみながら、市街地にやすらぐための場所を提供できた。

【実施箇所の今後の管理体制】
 設置箇所の管理者により誰でも使える形で適正に管理。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
 事業の目的について市民への説明会を開催した。
 看板を設置して、継続的に目的の啓発に利用される。

【実施内容に対する住民等の反応】
 「折りたためるイス」ということで、その仕組みや便利さ、木のぬくもりの心地よさを感じる事が出来るとの声が多かった。交流施設のため、利用する方も多く、木のぬくもりを感じながら休憩できるとして好評であった。

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	伊賀市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
6	基本	森のやすらぎ空間整備事業
事業費	1,500,000 円(うち交付金	1,500,000 円 うち基金活用 円)

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 日頃から森林整備を行っている地域(住民自治協議会)がバッテリー床机を製作し、事業実施主体(伊賀上野観光協会)が利用頻度が高いと思われる場所を選定し、設置した。</p> <p>【実施方法の選定理由】 ①設置場所を無料で提供いただける場所 ②基本的に誰でも自由に使える場所 ③観光客や市民の利便に供しやすい場所 ④交通事故の危険性が低く、適度のスペースを確保できる場所</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 木製ベンチ:整備費用、製作設置費用込み10/10(ただし上限50万円/1か所当たり) バッテリー床机:整備費用、製作設置費用10/10(ただし上限10万円/1か所当たり)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 該当なし</p> <p>【事業費の積算根拠】 木製ベンチ:整備費用、製作設置費用込み10/10(ただし上限50万円/1か所当たり) バッテリー床机:整備費用、製作設置費用10/10(ただし上限10万円/1か所当たり)</p>
5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 利用者の多いところを優先して整備しており、誰でもいつでも利用できるものであるため、利用者数の判断は困難。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 適正に管理されている。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 バッテリー床机は市民が自由に使える場所に取り付けられており転用の懸念はないと考えられる。また、看板を設置することにより、市民に利用目的を周知している。</p>
6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 新聞でとりあげられた。</p> <p>【実施中の実績】 該当なし</p> <p>【実施後の実績】 「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業の実施について、ケーブルテレビの行政放送にて放映した。 「みえ森と緑の県民税」のロゴが入った木製の看板を設置した。</p> <p>【今後の見込】 継続的に実施することにより、みえ森と緑の県民税の目的の周知を図る。 観光協会のHPや観光パンフレットの記載により継続的に周知する。</p>
7. 写真
別紙のとおり
8. その他特記事項
平成29年度実績 10か所

対策区分	4. 木の薫る空間づくり
------	--------------

市町名	伊賀市
-----	-----

事業名	森のやすらぎ空間整備事業
-----	--------------

7. 写真

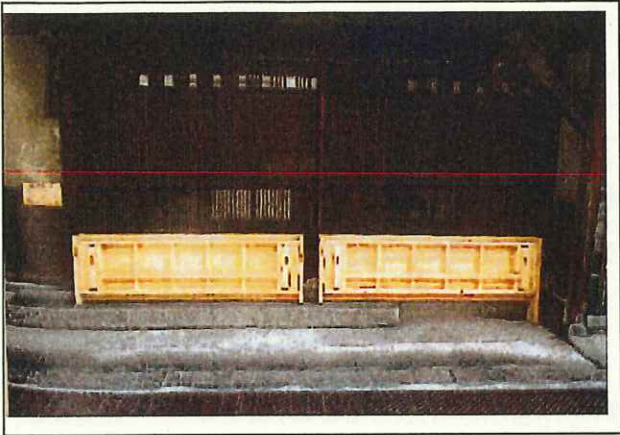


写真1
バッテリー床机配置



写真2
バッテリー床机配置

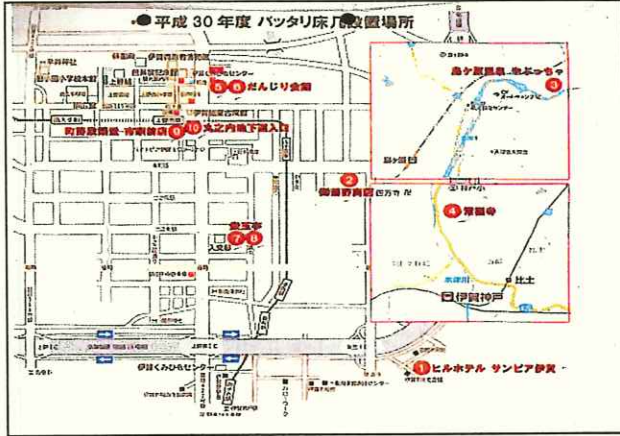


写真3
バッテリー床机設置場所

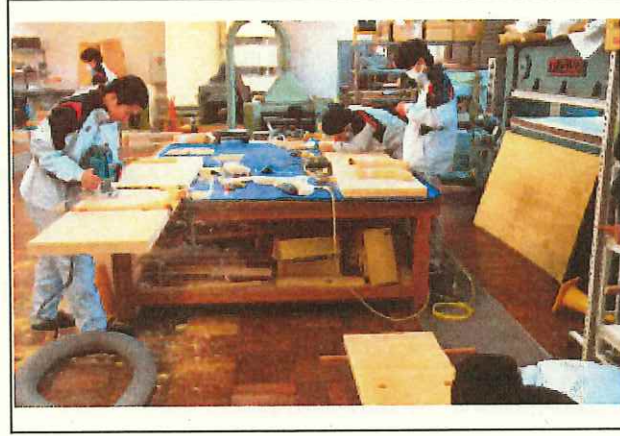


写真4
高校生による木製ベンチ製作のようす

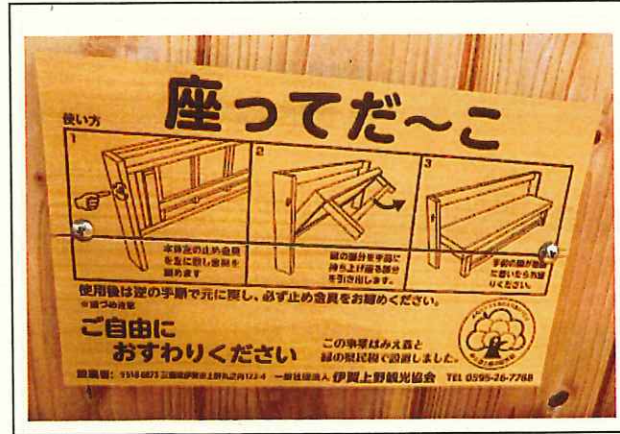


写真5
木製ベンチの説明プレート

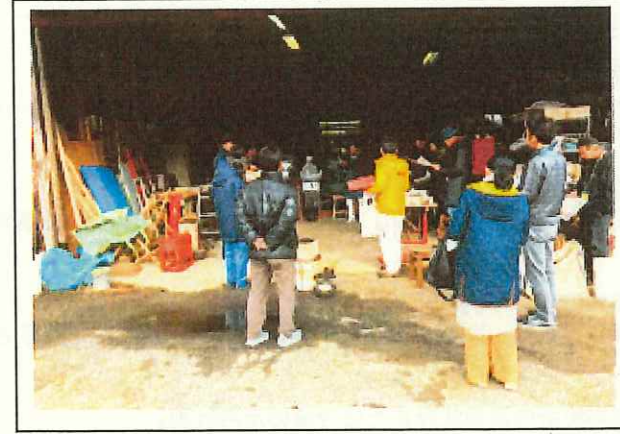


写真6
研修会のようす

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市
------	----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
7	基本	特定水源地域森林整備事業
事業費	8,100,000 円(うち交付金	8,100,000 円 うち基金活用 円)

1. 事業の目的	<p>水道水源にあたる特定水源地域内の森林の水源涵養機能の増進を図る。 水は市民共有の貴重な財産であり、森林の有する水源の涵養機能が水の供給に重要な役割を果たしていることから、特に市民生活に係わりの深い水道水源地域内の水源涵養機能の維持増進を図る必要がある環境林の整備を目的とする。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 三重県水源地域の保全に関する条例で特定水源地域に指定されている森林において、水源の涵養機能を始めとした多様な公益的機能の持続的かつ高度な発揮を目指す新たな取り組みとして、森林所有者と市町村及び事業体で環境林づくり協定を締結した、森林において環境林整備計画に基づき、下草や広葉樹の導入を目的とした強度の間伐を継続的に行うことで、多様で力強い森林づくりを行った。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 伊賀市</p> <p>【補助率等】 三重県造林補助事業標準単価を適用</p> <p>【箇所数】 協定を締結した特定水源地域に指定されている森林 団地 箇所</p> <p>【事業量】 間伐作業(本数間伐率30%以上)42.71ha 委託料 8,100,000円</p> <p>【事業実施期間】 平成30年4月2日～平成31年3月29日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 水道水源の涵養受益者 全市 給水人口 94,223人 年間表流水取水量 8,523,242㎡ 本年整備予定地域直下の水源年間表流水取水量292,952㎡ 整備森林面積 42.71ha</p>

3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 水源の涵養機能を始めとした多様な公益的機能の持続的かつ高度な発揮を目指す森林として三重県水源地域の保全に関する条例で特定水源地域に指定されているため。</p> <p>【実施した効果】 間伐作業を行うことにより、水道水源地域において、特に水源涵養機能の増進が期待されるため。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 森林所有者と市及び事業体が環境林づくり協定に基づき、引き続き管理する。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 標柱を設置して、作業地をPRすることにより、市民の水源涵養の大切さや森林整備の必要性について理解を得ていく。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 適正な森林整備を行うことに対し、森林所有者などから好意的な評価をいただいている。</p>
---------------	--

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市
------	----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
7	基本	特定水源地域森林整備事業
事業費	8,100,000 円(うち交付金 8,100,000 円 うち基金活用 円)	

4. 効率性

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
認定林業事業体に間伐作業を委託することにより、適正で効率的な間伐作業ができた。

【実施方法の選定理由】
伊賀市特定水源地域等森林整備計画に基づき、施業方法を選定した。

【契約方法と落札率または補助率等】
落札率:94.9%

【契約相手方の選定理由】
対象森林の森林所有者から管理を委託された、間伐施業実績のある認定林業事業体。

【事業費の積算根拠】
一体的に施業すべき森林において、三重県造林補助事業標準単価に基づき積算

5. 公益性（波及度）

【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】
水道水源の涵養受益者 全市 給水人口 94,443人
整備森林面積 42.71ha

【管理責任者（森林所有者）への対応】
環境林づくり協定を締結し、適正に公的管理をする。

【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】
環境林づくり協定を締結し、転用等を規制する。

6. 周知実績と今後の周知

【実施前の実績】
「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業の実施について、ケーブルテレビの行政放送にて放映した。

【実施中の実績】
該当なし

【実施後の実績】
整備団地に、みえ森と緑の県民税事業であることを示す木製看板を設置した。

【今後の見込】
今回の施業地の具体的な情報などを水道のしくみを学ぶ小学生などにも教え、水源地域の森林施業の大切さを伝える。

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり
------	----------------

市町名	伊賀市
-----	-----

事業名	特定水源地域森林整備事業
-----	--------------

7. 写真



写真1
間伐施業地



写真2
間伐施業地(検査)

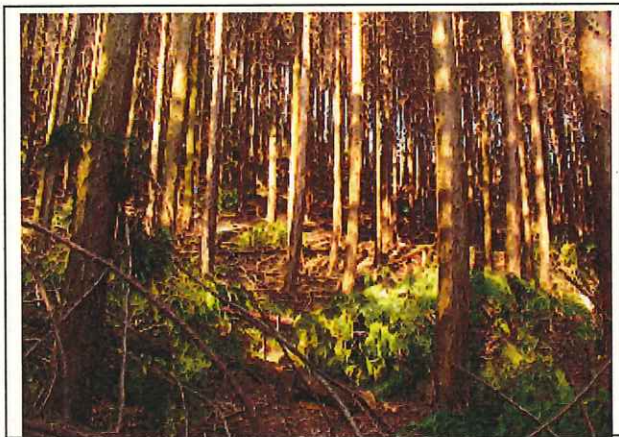


写真3
間伐施業地



写真4
間伐施業地



写真5
間伐施業地



写真6
間伐施業地

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	伊賀市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名	
8	基本・特別	市庁舎木質化事業	
事業費	55,923,480 円(うち交付金	34,175,000 円 うち基金活用	13,490,151 円)

1. 事業の目的	多くの市民が利用する市庁舎の木質化に三重県産スギ材を利用することで、木の香る空間作りの意義と三重の森林を持続的に保全管理及び利用を考える機会を作る。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 新庁舎内装の一部木質化に三重県産材を利用し、三重県産材のぬくもりを来庁者に感じてもらうと共に、三重県産材の利活用促進に関する啓発を図った。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 伊賀市</p> <p>【補助率等】 交付金全額を木質化該当分に充当。 充当可能上限額:34,175,000円</p> <p>【箇所数】 2階から4階までの吹き抜け部分、5階議場、1階天井部分</p> <p>【事業量】 木質化部分 1階天井部分 床面積 280㎡ 天井木製ルーバー設置面積 280㎡ 吹き抜け部分 床面積 220㎡ 吹き抜けルーバー設置面積 72㎡ 5階議場 床面積 245㎡ 壁面木製ルーバー設置面積 288.8㎡ 合計県産材使用材積 約13㎡</p> <p>【事業実施期間】 平成30年4月2日から平成31年3月29日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 庁舎利用者、議会傍聴者及び施設見学者(小学生等) 庁舎内覧会来場者数1022人</p>

3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 市民を中心とする多くの来庁者の目に触れることから、当該箇所を選定した。</p> <p>【実施した効果】 新庁舎に三重県産材を利用することにより、県産材の利用促進に資する。 来庁した住民やテレビを見た人の目に留まりやすい1階エントランス、吹き抜け、議場などを木質化することにより、木材の良さをPRする。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 市として適正に管理していく。手に触れる場所は少なく破損の可能性は少ないが、経年劣化などに対しては適切に管理を実施していきたい。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 市役所庁舎として活用。庁舎エントランスでパネル展を開催して、森林・林業やみえの森と緑の県民税事業への関心理解を深める。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 内装の木質化について、木のぬくもりを感じる事が出来るほか、デザインとしても優れた材料であることを感じられるといった声があった。</p>
---------------	---

対策区分	4. 木の薫る空間づくり		市町名	伊賀市
番号	区分	事業名		
8	基本・特別	市庁舎木質化事業		
事業費	55,923,480 円(うち交付金	34,175,000 円	うち基金活用	13,490,151 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 工事業者への委託及び県産材取り扱い業者への発注</p> <p>【実施方法の選定理由】 ①多くの市民が訪れる公共施設内であること。②三重県産材を使用する。③木のぬくもりを感じられる適正な配置であること。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 契約方法:一般競争入札(総合評価型) 落札率:90.73%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 総合評価の評点と、一般競争入札の入札額による。</p> <p>【事業費の積算根拠】 設計業者の積算と見積による。</p>
--------	---

5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 庁舎内覧会来場者数1022人</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 公共施設整備であるため、転用等が想定されず、該当しない</p>
-------------	---

6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 旧庁舎エントランスに設置した新庁舎の模型に登り旗を設置し、事業のPRを行った。 工事現場の仮囲いに事業のロゴを設置し、実施のPRを行った。</p> <p>【実施中の実績】 新庁舎内覧会の際に特設ブースを設け、本事業のPRを行った。(内覧会来場者数1,022人)</p> <p>【実施後の実績】 引き続き来庁者に向けて、木製ルーバーの告知をするとともに、定期的のみえ森と緑の県民税事業のパネルを庁舎入口に設置し、事業PRに努める。</p> <p>【今後の見込】 来庁した際や、ケーブルテレビなどを通じて多くの市民の目に触れる。</p>
---------------	--

7. 写真	別紙のとおり
-------	--------

8. その他特記事項	
------------	--

対策区分	4. 木の薫る空間づくり
------	--------------

市町名	伊賀市
-----	-----

事業名	市庁舎木質化事業
-----	----------

7. 写真



写真1
庁舎内PR活動



写真2
木質化カウンター



写真3
木製縦ルーバー



写真4
5階議場



写真5
1階エントランス木質化部分



写真6
天井ルーバー

